

憲法25条の生存権が輝く安心と平和の社会をつくろう

千曲川のにじ

発行 / 東信医療生活協同組合 〒386-0042 上田市上塙尻393-1 TEL 0268-28-1085 FAX 0268-28-6085 E-mail sosiki@dolphin.ocn.ne.jp

- 上田生協診療所 TEL 23-0199 FAX 23-0449
http://www.toshin-iryou.com
- 川西生協診療所 TEL 31-1411 FAX 31-1416
- さかき生協診療所 TEL 82-0101 FAX 82-0102
- 上田生協訪問看護ステーション TEL 22-3055 FAX 23-5311
- ヘルバーステーション“にじ” TEL 29-2811 FAX 75-2595
- 元気倶楽部まゆ（通所介護） TEL 22-3248 FAX 75-2595
- 居宅介護支援事業所 TEL 23-0244 FAX 23-5311
- 悠々倶楽部かみしな（通所介護） TEL 22-5445 FAX 75-8629

東日本大震災

被災地支援へ

心を寄せあおう

ガレキ化した多賀城市内（3月30日）



**支援隊3次にわたり派遣
救援募金のご協力をお願ひします**

3月11日に発生した東日本大災害に対し当医療生協は、全日本民医連、日本医療福祉生協連との連携のなかで、いち早く組合員、職員の皆様に被災者救援募金と救援物資のご協力をよびかけ、受付を始めるとともに、3次にわたり8名の職員医療支援隊を宮城県塩釜市の坂総合病院へ派遣、物資を届けるとともに、それぞれが4日間の医療支援活動を行つて来ました。

泥につかった松島海岸診療所（3月13日）



坂総合病院での支援者のミーティング（3月18日朝）



【第1次派遣隊】職場で見送りを受ける
左から清水さん、大池さん、古市さん



【第3次派遣隊】折り鶴を持って出発する
左から市川さん、依田さん、橋爪さん



【第2次派遣隊】出発する
左片山さん、右田内さん

3月17日 3名（大池
看護部長、活動部長、
清水組合員古市看護師）泉病院にて活動。

3月29日 2名（片山
検査技師、田内事務）多賀城市地域、避難所の臨時診療所で活動。

4月17日 3名（依田師長、橋爪
かみしな所長、市川検査主任）松島海岸診療所で活動。

また、3月30日には川辺2石井
支部長と石山職員（悠々俱楽部）
が、支援物資120箱をトラック
に積んで東京民医連へ届けました。

一方3月12日の大地震で大きな被害を被った長野県栄村へは、4月12日 3名（野崎副理事長、中沢専務理事、大池看護部長）がお見舞いに訪れ、斎藤家富副村長に義援金を手渡し、激励してくださいました。栄村はまだ雪の中にあり、倒壊家屋はそのままで、下水道の修復、崩壊した鉄道、道路復旧工事に懸命に取り組んでいました。

当医療生協は引き続き、被災地と心をひとつに支援活動に取り組んでいきます。



東京民医連へ物資を届ける
左石山さん、右石井さん

[救援募金について]
東信医療生協扱いの大震災救援募金は5月12日現在1,307,954円となっています。この内、400,000円を全日本民医連、医療福祉生協連を通じて東日本大震災の被災自治体へ送り、200,000円を長野県栄村役場へ直接届けました。

組合員の皆様にはひきつづき救援募金の御協力をお願いします。

第27回通常総代会は、6月25日（土）午後1時より創造館において開催されます。各支部（選挙区）では総代を選出し、6月10日までに事務局へ氏名を報告して下さい。選挙区及び総代数は次の通り。

支部名	組合員	総代	支部名	組合員	総代	支部名	組合員	総代	支部名	組合員	総代
東 部	355	4	神科北	690	8	川 西	516	7	他市町村	543	2
南 部	97	1	神科南	266	2	塩 田	999	10	その他の	843	
中 央	294	3	神 川	414	4	真田町	433	4	職 員	110	4
北 部	395	4	豊 殿	215	3	菅 平	48	1			
新 田	424	5	城下東	423	5	丸 子	297	2			
緑ヶ丘	459	5	城下西	500	6	青木村	606	7			
西 部	524	6	川 辺 1	669	8	東御市	394	5			
秋 和	282	3	川 辺 2	447	4	坂城北	945	11			
塩 尻	616	8	浦 里	757	9	坂城南	1,130	14			
合計 14,641 155											

総代の選出について

2010年のまとめと2011年方針（骨子）

2011年5月18日

はじめに

東日本大震災に対し当生協は、医療福祉生協連と全日本民医連の方針に沿い、8名の支援隊を現地に派遣、救援募金、物資を届けるなどの救援活動に取り組んできました。

上小地域が地域医療再生計画の指定を受け、25億円が交付され、「信州上田医療センター」を中心に行なった。再生計画が軌道に乗ることは、充実させる私たちの運動の成果として評価されます。

「悠久俱楽部かみしな」が、地域の皆さんに支えられて開設できたことは、地域へ広がる医療生協運動の証として大きなステップと言えます。

組合員活動

2010年のまとめ

(1) 支部運営委員会が21支部で定着、新たな担い手がうまれ、支部の活性化が図られてき、支部ニュースも16支部で発行されてきました。

(2) 強化月間では、「支部長・理事会同会議」を足がかりに活動の前進がはかられ、出資金で2千万円の

目標を達成しました。

(3) まちかど健康チェックは、支部独自でスーザーや温泉施設で実施、地域で期待と関心を寄せられています。

(4) 21回健康まつりは900名が参加、元気の出る支えあいの場となり、支部活性化の源泉ともなりました。

(5) 班会開催は757回と過去最高となり、地域の絆を深めました。とりわけ、バランスボールは、班会の目玉として地域に広がりました。

(6) 認知症サポーター養成講座は支部独自でも取り組まれ、地域の関心が高まつてきました。

(7) 自治体訪問は、上田市、東御市、坂城町、青木村に広がり、行政との情報交換を通して地域ネットワークが拡充されました。

(8) ボランティア活動は、ボランティアさんのたゆまぬ尽力によつて、介護施設、送迎、美化活動などで広がり、事業所を支えてきました。

2011年度の方針

日本医療福祉生協連で提起された「医、（福）、食、住」の事業活動

を広げようという呼びかけを受け止め、推進します。

3 第141号

東日本大震災に対する復興、救援支援は中長期にわたります。組合員の力を結集して取り組みます。

2010年のまとめ

(1) 組織強化月間は全国的取り組みに合わせ、9月～11月に設定し、取り組みます。

目標は、組合員増やし1000人、出資金2,000万円出資件数2、200件とします。

(2) まちかど健康チェック、配布者のつどい、認知症サポーター講座、虹のバレンタイン行動に取り組み、組合員が楽しく集える場として、支部のたまり場づくりを推進します。

(3) 新班会開催と班会開催回数は、より多くの組合員の参加をよびかけ、前年度を更新していきます。健康ファイルの活用を推進します。

(4) 通信教育を広く呼びかけ、健康づくり塾、ボランティア講座に取り組みます。

(5) 第22回健康まつりは、10月23日(日)に開催し、喜びの最大イベントとして取り組みます。

(6) 自治体訪問を重視し、自治体との情報ネットワークづくりを進めます。

(7) 職員と組合員の、活動や研修会での相互交流を進め、「医療生協会人」育成を目指します。

医療・介護の活動

(1) 利用委員会と上田診療所で、待ち時間の対応として外来待合に立ち、苦情を少なくする取り組みを始めました。

(2) 自宅療養を希望する患者さんを要望に応え、往診体制を強化し成果を上げてきました。

(3) 人間ドック、企業健診を重視して取り組み、前年を上回る成果を上げました。

(4) 医師確保については、あらゆる対策を講じてきましたが、状況は厳しく期待に応えられませんでした。今後も独自で探す対策を強化して粘り強く活動を続けます。

(5) 長年所内で運営してきた厨房業務を4月から外注化しました。今日までの関係者の労苦を多としつつ、事業の拡充とサービスの向上が図られるよう支援していきます。

(6) 通所介護「悠久俱楽部かみしな」が4月開設となりました。内覧会に地域から94名が来所されるという関心の高さを示しました。地域に根をはり支えあいの関係を深めていくよう努力します。

(1) 3診療所の診療態勢を強化し、

2011年度の方針

デイサービス 「悠久俱楽部 かみしな」オープン

4月1日、待望の通所介護「悠久俱楽部かみしな」の開所式及び完成祝賀会が取り行われました。開所式で桜井理事長は、このような周囲の自然環境に恵まれた場所で、地域の皆さんに支えられて開所出来ることへの感謝の言葉を述べました。

祝賀会は会場を〔蛇沢自治会館〕に移し、地元蛇沢、金井、山口の自治会、建築関係者38名が参加して開催、蛇沢の小林自治会長は「こんなよい施設が出来、地元としても本当に喜ばしいことです。協力を惜しまない」とあいさつされました。担当職員5名が紹介され、橋爪美由起所長からお礼と決意の言葉を述べました。



祝賀会であいさつされる小林繁雄 蛇沢自治会長

高村京子さん当選!!



4月10日の長野県議会議員選挙で、上田小県郡区から立候補した高村京子さん（東信医療生協常務理事）は、接戦を勝ち抜き4期目の当選を

果たしました。

高村さんは、「公約実現に向けて全力をあげます」と決意を語りました。

介護事業所との連携を図りながら、組合員の願いに応える医療介護事業をめざします。

(2) 医師態勢については、東信対策委員会とも連携を密にし、医師紹介業者との連携、医学生対策、組合員からの紹介活動により力を注ぎます。

(3) 在宅医療を推進し、訪問看護、訪問介護事業を支えます。

(4) 人間ドックを上田診療所に集中させ、受け皿を広げます。

(5) 地域医療センターや開業医と連携を図り、医療と介護のネットワークを強めます。

(6) 「悠久俱楽部かみしな」を軌道に乗せるため、事業所、ケアマネ間の連携強化を図り、安定した通所者の確保に努めます。

2011年度の方針

- (1) 12年度からの新5カ年計画策定にプロジェクトチームを立ち上げ、専門性を強めます。
- (2) 当生協の介護事業活動を地域に

医療体制の困難さから診療縮小を余儀なくされ、医師・職員の日夜を分たぬ奮闘にもかかわらず、経営上となる見込みです。今後長期計画の策定と併せ、健全化への対策を急ぐ必要があります。

2010年度のまとめ

(3) 12年度の診療・介護のダブル改定に向け態勢を整えるとともに、役員の総意を結集して安定的経営へ全力を上げます。

社保・平和

- (1) 年2回「生協平和学習会」を組合員、職員合同で開催、戦争、沖縄問題を講演と映像で学び合いました。
- (2) 原水禁世界大会に2名を派遣、毎月の核廃絶署名行動に参加していました。

2010年度の方針

- (1) 年2回「生協平和学習会」を組合員、職員合同で開催、戦争、沖縄問題を講演と映像で学び合いました。
- (2) 「核兵器全面禁止アピール署名」を進め、原水禁世界大会代表派遣に取り組みます。

2011年度の方針

- (1) 憲法9条を守る会とともに年2回「平和学習会」に取り組みます。
- (2) 「核兵器全面禁止アピール署名」を進め、原水禁世界大会代表派遣に取り組みます。
- (3) 後期高齢者医療制度の廃止署名、TPP不参加運動、高齢期運動に取り組み、陽だまりネット相談会など、地域の平和と生活向上の運動に参加します。

広報し、紹介活動を強めるとともに、人間ドック受診は、当生協の充実したドック内容を広めていきます。

(3) 12年度の診療・介護のダブル改定に向け態勢を整えるとともに、役員の総意を結集して安定的経営へ全力を上げます。

経営

TPP不参加署名に取り組み、ピースウォーカ、毎月の陽だまりネット相談会などに参加してきました。

後期高齢者医療制度の廃止署名、TPP不参加署名に取り組み、ピースウォーカ、毎月の陽だまりネット相談会などに参加してきました。

困っているときに救える人に勇気もらう

大池啓子

ながら助け合いながら生きていく、
さまざまな姿がありました。
最後の日、泉病院の職員から、

「来てくれてだけでもうれしい、
ありがとう」の言葉に元気をもら
いました。
(看護部長)

2011年5月18日

3月17日に職員3名、車には隙
間がないほどの支援物資と、職員、

組合員さんの気持ちを積み込み、
新潟回りで、常磐道、東北道を約

600キロを走って、夕方塙釜市
の坂総合病院に着いた。

市内に入ると、家は流されて壊
れ、車はおもちゃのように潰れ、
トランクが転がっている。町は瓦
礫と変わり果て、人がいない。津
波は一瞬にした町をのみ込んで、
生活を奪ってしまった。廃墟とな
った光景を目の当たりにして、
画像よりも実態の凄まじさ、痛ま
しさを焼き付けられた。

病院は高台にあり、建物被害は
少ないようみえた。ボランティ
アは400人近くが来ており、医
療生協、民医連の組織の大きさを
改めて感じた。私たち3人は泉病
院に入った。ここでは、地震の
あつた当日は、休みの職員や、友
の会の方たちが駆けつけ、入院患
者90人全員を避難させたとのこと。
訪問看護の職員は「自分の家は地
震でグシャグシャになつたが、と
りあえず寝る場所を確保して、あ
とはづつと仕事をしている。人工
呼吸、在宅酸素、吸引の必要な患
者さんの状態を見に訪問、ガソリ
ンを新潟まで買いに行き

3交代から2交代にした。事務職
がガソリンを新潟まで買いに行き
職員に分けてあげ、家へ帰れない
職員のために、友の会のみなさん
が、3食の炊き出しや、買出しに
てあげていました。みんな気遣い

30分～零時までと、早朝5時～10
時まで3日間仕事をしました。回
復期リハ病棟で、ほぼ全員の方が
介助が必要とし、ナースコールも
頻繁になり、徘徊や大声を出
す方もありましたが、手薄にな
った体制の中でも職員は、
笑顔と声掛けを欠かさず一生
懸命に応対しており、胸が熱
くなりました。自らも被害者
であり、行方がわからぬ家
族がいても、目の前の患者さ
んにきちんと立ち向かい合う、
本当に困っているときに救え
るのは人なんだなあと感じ、
勇気をもらいました。

身内の安否が1週間して
やつと確認できたけど、会え
ない職員。震災で通勤できな
くなつた職員があり、夜勤も急遽

日本大災害支援に参加して

友の会の方々と共に力を合わせて

清 水 竹 子

ながら助け合いながら生きていく、
さまざまな姿がありました。
最後の日、泉病院の職員から、

「来てくれてだけでもうれしい、
ありがとうございます」との言葉に元気をもら
いました。
(看護部長)

支援に入った泉病院は94床の病
院で、震災日から外来診療はせず、
救急患者のみ受け入れでした。救
急搬送されてきた患者さんは、
地震の恐怖・一日何回も襲つて
くる余震の影響と寒さで食欲が
低下し、まだ若いお母さんでした
が、低血糖と脱水で救急車搬
入されきました。この家族の
家では電気は震災日から4日目
ぐらいで復旧したが、お風呂は
プロパンガスなので、できるだ
け台所で使用できるようにお風
呂は我慢しているとのことでした。
食事もスーパーに行つても
2000円で10品までとか、2・
3時間並んでも欲しいものは買
えない状況がつづいている、ガ
ソリンもなくて、出かけることも
できないとのことでした。

私は一回目は外来患者対応の一
方、外来の診察室・健診室・処置室
等の掃除をし、外来業務に支障が
ないようにしました。

「病棟の患者さんも不安だった
ので皆さんのがいてくれ安心できて
います」と看護部長さんから言葉
をいただき、任務をおこなうこと
ができたことに感謝しています。

(組合員活動部長)

5 第141号



壊滅した塩釜市内

起こつて欲しくない震災、しかし自然の猛威には人間の力など微細なものだと今回も痛感しました。連日流れる報道、私たちに向かった仙台は、まさにその渦中にありました。

全国の仲間が、愛情あふれる物資と期待も一緒に背負いながら、仙台市・坂総合病院に集まり支援を行いました。

直接支援に入った、泉病院は一

全ての人が地域を支えあつて いる

古市雅登

部病棟、エレベーターが使用できなくなり、水、燃料不足が深刻でした。全てのスタッフ、組合員が

被災者でありながら、入院患者様、通院患者様への最大限のサービスの提供が行われていました。一見

すると通常診療に近いほどに。水が出る家のスタッフは通勤時に飲料水を持ち、組合員さんが炊き出しを行い、ボランティアさんがト

イレに流す水の運搬、1日かけてガソリンの買出しに新潟まで出かける。全ての人が病院を、患者さんを、スタッフを、地域を支えあつて いる。まさに民医連の精神が良くなっています。

私たち、そんなスタッフの負担軽減と、最小限の物資の中でサービス提供を行いました。

今後求められる支援に応えられる高い意識を持ち続けたいと考えます。

(看護師)

デイサービスの犠牲者に涙とまらず

橋爪美由起

宮城県松島市松島海岸診療所の支援に入りました。

診療所から10数分車で走った東松島に同法人が開いていた「ひなたぼっこ」というデイサービスがあり大きな津波に襲われ職員3名、利用者12名が犠牲になりました。

同じデイサービスを営む仲間がここでどんな思いでいたのか、と思うと涙がとまりませんでした。

今は「ひなたぼっこ」で働いていた職員さんや利用者さんが診療所の2階にあるデイケアに来て います。それぞれいろいろな思いを抱えながらも気丈に明るく頑張っていました。震災の影響でエレベーター

(悠久俱楽部かみしな所長)

組合員現勢	
(4月30日現在)	
■組合員	14,648人
■出資金	33,678万円
■一人平均	22,992円

※依田さん、田内さんの報告は次号に掲載します。

生まれ育ったところでお墓を守りたい

片山吉洋

3月30・31日と宮城県多賀城市に入り、津波被害のあつた地域訪問と多賀城小・中学校の避難所の臨時診療所で問診の仕事をしてきました。

地域訪問では、海に壊滅で、住める状況ではありませんでした。避難所から自宅のガレキ撤去に来ている方や、自衛隊が捜索をしながらガレキの撤去をしていました。

避難所では避難されている方と少しお話が出来ました。県外の親戚のところへ避難することを役所から薦められるが、生まれ育つた所でお墓を守らなければ、と言われていたことが印象に残りました。

最後に、行く時は点いていないかった信号が帰りには点いていて復旧を感じました。(検査技師)

かつた信号が帰りには点いていて、当の意味で支援になっていたのかどうか……自分の小ささを痛感し、達成感には程遠い感じですが、それでも苦しんでいる仲間の所に駆けつけ団結できるというのは民医連ならでは!と頼もしくも思えました。

避難所への誘いを断つたお年寄り

市川久子

2011年5月18日

震災後「何か役にたちたい」の想いが被災者の方に直接関わることができる、感慨深いものがあります。

東松島海岸診療所でのオリエンテーションで読まれた、助かつた職員さんの悲惨な手記、なるせの郷の介護施設「ひなたぼっこ」とその横に隣接する避難所となつた野蒜小学校体育館を見たときのなんともいえない切なさ、涙がとまりませんでした。たくさんの方が犠牲になられた場所を映像と現にみるのでは全く違う想いがあります。

1日目の作業は独居のお年寄りの家の片付けと泥だらけの薬局の片付けでした。お年寄りの家の片付け後に、地震が来た時のお話を聞くことができました。椅子に座つたまま、1メートル以上移動したそうです。その後避難所へ行くように言われたそうですが、その方は両股関節の手術をしている為、歩行補助器、椅子、ベッドがないと生活ができないので「人に迷惑をかけるのなら、ここで死にたい」と避難所への誘いは頑なに断つたそうです。避難所も長期にわたり場合は身体に障害が在る方

のことでも配慮が必要ですが、こういう場合の個人の意思をどこまで尊重したらよいのか、考えさせられました。



なるせの郷 診療所駐車場（3月13日）

長野県民医連共同組織活動交流集会

記念講演「健康に生きて、満足に死ぬ」に共感の声

感謝されたとのことでした。地震、津波の怖さ、そしてそれに打ち勝つ被災者の方の強さを感じました。また医療生協、民医連

の仲間の熱い想い、を感じることができ、阪神大震災と同様、後世に伝えていかなければいけないと思います。（検査主任技師）



第14回共同組織活動交流集会

「健康に生きて、満足に死ぬ
矢嶋嶺先生講演会」

今年で14回目を迎えた長野県民医連共同組織活動交流集会は、東信医療生協の主幹で3月12日、全县から305名の多数が参加して、上田市の長野大学で開かれました。矢嶋嶺先生による「健康に生きて、満足に死ぬ」と題しての記念講演は、軽妙洒脱な話術に独特のユーモアを交え、医療行政、製薬独占をも鋭く告発、地域で支えあう健康づくりの重要性を強調され、会場に共感の拍手が沸きました。

文化発表では、東信医療生協健康づくり委員によるバランスボール実技、組合員有志によるコカリナ演奏が行われました。

午後からは、5つの分科会に別

れて熱心な報告と質疑が行われました。東信医療生協からは、神科北支部深町支部長が新ディサイビスの立ち上げまでの活動について、塩尻支部松本支部長・永井さんが「まゆ」空き部屋利用たまり場づくりについての報告を行いました。

前日の11日は、東日本、長野北部に大地震があつた日、開催も心配されました。参加団体のご協力で無事終了しました。会場では県共同組織会長野口さんから、東日本大震災へのカンパの呼びかけがあり、15万6千円が集まりました。

「ヘルパーステーションにじ」熱心に事例発表会

害者7名に対応
介護者98名、障
ヘルパー24名で、
害者7名に対応



事例発表 ヘルパーさん

①全盲の方が、はじめは応じてもらえたが、声をかけ続けるうちに一緒にトイレへ行くようになり、入浴を楽しみにしてくれるようになった。（飯島）

②認知症の夫を介護する奥さん。いわゆる「老老介護」の厳しい現状に接して来た。つには奥様の病状が悪化するという辛い現実に苦心して介護してきた。（有銘）

③「障害者自立支援サービスの難しさと課題」在宅障害者支援の業務認定を受け、対応をしている。

④他人が入るのを嫌う人で不安続

きだつた。孫のつもりで気軽に接していくつた。やがてヘルパーさんの作つた卵焼きを美味しいと言つてくれるようになつた。そして

「ありがとう、また来てね」とも嬉しかつた。或る日フロントガラスに娘さんからの手紙が張つてあつた。「ヘルパーさんが来て母も元気になつた。私の体調も回復しました。ありがとうございます」と。（堀内）

⑤自宅へのこだわり、ターミナルケアから回復した90歳の方。東京へ行きたいと言い出し

恋人の写真に見入る。若い薬局の女性が来たら、なんと曲がっていた腰が伸びるではないか。おどろき。（竹本、木下）

⑥リスクマネージメント研修を受講して。「人の力を信じて、その人らしい生活を支える」ことの大しさを学ぶ。（西山）

「ヘルパーステーションにじ」の皆さんによる第7回事例発表会（前半）が、4月10日、組合員ルームで開かれました。14名のヘルパーさんから、患者さんと心の通い合うまでの苦労や、通り合った時の喜びなど臨場感のある体験報告があり、38名の参加者が熱心に聞き入り、学びました。その一部を紹介します。（）内は報告者。

している。（金森）

採用
小林正弥 4月11日付

常勤・東信医療生協事務。5月9日～組合員活動部。上田市本郷。

舟本美香 4月11日付

パート介護福祉士、悠々俱楽部かみしな。

永井靖 4月11日付

看護師・上田生協診療所（訪問看護ステーションより）

孫竹尚美 4月18日付

看護師・居宅介護支援事業所（上田生協診療所より）

児玉千穂子 4月1日付

看護師・上田生協診療所（訪問看護ステーションより）

人事

（異動）
市川美穂 4月1日付

主任看護師・上田生協訪問看護ステーション主任（居宅介護支援事業所より）

松田弘恵 5月9日付
パート事務、上田生協診療所。上田市上田。

田生協診療所病棟 上田市塩尻。
田生協診療所病棟。上田市塩尻。

花岡こづえ 5月20日付
介護福祉士・川西生協診療所デイケア（元氣俱楽部まゆ）

秋山美代子 5月16日付
看護師・悠々俱楽部かみしな（上田生協診療所より）

孫竹尚美 4月18日付
看護師・居宅介護支援事業所（上田生協診療所より）

児玉千穂子 4月1日付
看護師・上田生協診療所（訪問看護ステーションより）

孫竹尚美 4月18日付
看護師・居宅介護支援事業所（上田生協診療所より）



理事会報告

第10回理事会 3月26日

議題 ①東日本大震災並びに長野県北部震災支援活動の取り組みについて対策本部報告を確認。②悠々俱楽部かみしおープンに向けて協議。③委員会規定期定及び組合員組織規定の改定について承認。④人事について承認。

第11回理事会 4月30日

議題 ①東日本大震災並びに長野県北部震災支援活動の取り組みについて対策本部報告を確認。②委員会規定期定及び組合員組織規定の改定を承認。③総代会の準備について。④2010年度の総括と2011年度方針について協議。

⑤理事会の回数・呼称の変更について承認。⑥人事について承認。

※後半の発表会は、5月8日に行われました。

8日を行われました。

※後半の発表会は、5月8日に行われました。

8日を行われました。

班会活動 アラカルト人

4月はお花見の季節に合わせて配布者のつどいが4支部・認知症サポーターポータル養成講座が1支部を開催されました。塩田支部では配布者の3割の方が参加し、塩田大円寺の桜を楽しみながら交流しました。



【塩尻支部】

福寿会の皆さんと医療生協塩尻支部合同で25名の参加で養成講座を行いました。地域みんなで認知症の方を支えていける町づくりを目指していきましょうと学習しました。



【城下東支部 配布者のつどい】

健康チェックとバランスボールで楽しく交流をおこないました。



会場では重ねて大震災の救援募金が行なわれました。

4月はお花見の季節に合わせて配布者のつどいが4支部・認知症サポーターポータル養成講座が1支部を開催されました。塩田支部では配布者の3割の方が参加し、塩田大円寺の桜を楽しみながら交流しました。

WHO世界保健デーに合わせ4会場7支部でまちかど健康チェックを温泉施設・スーパー店舗でおこないました。城下西支部では初めて西友中之条店で取り組みがされました。4会場で東日本大震災募金では6,963円の募金が集まりました。



【城下西支部】



【新田支部 配布者のつどい】

黄金沢川土手にてお花見
(満開の桜)



【川辺1支部 配布者のつどい】

ギター演奏・ハーモニカ演奏で歌あり・どんとこい班でのバランスボール体操等で楽しく交流しました。

そのあと、2年目職員による班会メニューの紹介、各班の活動交流発表がありました。

シルク班（発言者・小岩井）では、玄米にぎにぎ体操を長期に亘り続け、今では89才の女性2名を含む30人が参加、楽しい班会の様子が発表されました。

今まで班会が休止状態であつた青木村支部では、坂井新理事になって支部ニュースを発行、広く組合員に健康チェック班会開催を知らせたところ、一回目に新人3人が参加、2回目にはその人たちが新人2人をさそつてくるなど次第に参加者も増え月1回の開催が待ちどおしいと言われるようになつたと喜びの報告がありました。

その他塩尻支部が「元気俱楽部まゆに防災カーテンを」と資金集めに手づくりの小物を販売しました。池下班（発表者・渡辺）からは、ウォーキング、

童謡合唱など多彩な班会メニューで楽しく班会を持続していくことなどが報告されました。

119人が集い 健康づくり交流集会

レインボーボール体操で楽しむ

WHO世界保健デーの取り組みと 東日本大震災募金活動

WHO世界保健デーに合わせ4会場7支部でまちかど健康チェックを温泉施設・スーパー店舗でおこないました。

WHO世界保健デーに合わせ4会場7支部でまちかど健康チェックを温泉施設・スーパー店舗でおこないました。





さわやかパズル

第27回



① 原子力発電のこと。
略して。

② 休む間、応接に○○
○がない。

明治前期の政治家。

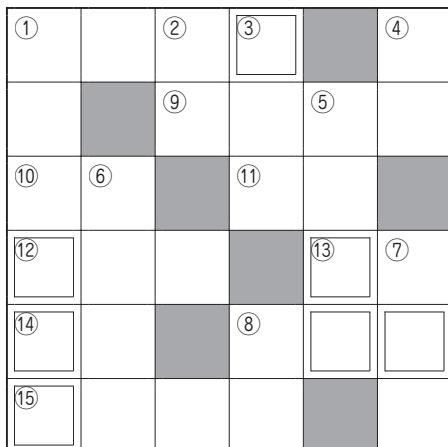
江子（眞田）。
第26回
パズル当選者氏名（敬称略）
伊野和代（豊殿）、太
とよ子（坂城北）、小林幸子（青木
村）、西澤栄子（坂城南）、山崎い
い。（N）

- ③ 島根県の城下町。山陰の小京
都と呼ばれている。
- ④ ウコギ科の小高木、若芽は山
菜の王様。
- ⑤ 酒や味噌の醸造元。
- ⑥ 七五三縄とも書く。
- ⑦ タラ科の魚。漢字で水下魚。
- ⑧ ○○将棋。

★ 答えはハガキで。
正解者のなかから抽選で5名の皆さんに図書券を贈呈します。住所・氏名・答え・ご感想などを添えて、東信医療生協編集委員会「さわやかパズル」係までお寄せ下さい。
※ 前回の答えは、「ダテナオト」でした。

- ① 下位の者が上位の者の地位や権力をおかすこと。戦国時代。
- ② 円周率の記号（π）
- ③ 島根県の城下町。山陰の小京都と呼ばれている。
- ④ 田または畠。○○仕事。
- ⑤ 頭髪をすく道具。
- ⑥ 土地の表面。
- ⑦ はつきりしない様。
- ⑧ 火山灰のこと。
- ⑨ あごの上部のこと。

クロスワードを解いて二重枠に入る文字を並び替えると一つの言葉になります。その言葉が答えです。
②ヒント
国宝に指定されています。



読者の声

③ 「元気俱楽部かみしな」おめでとうござります。（坂城・女性）
3・11大震災の暗転。凄まじい自然の破壊力。原発の先の見えない恐怖、現地の不安は極限にある。医療生協も全国の仲間と共同して被災地へ支援の行動を頭してきた、これからも支援を継続する。▼けだしこの大震災原発事故は、人々の思いは大きく変革した。被災地の復興、新しい故郷づくりへの全面的支援、原子力発電からの決別と再生可能なエネルギー政策への転換へと。▼生命と健康を守ることを使命とする私たちも、今足元を見直し、明日への展望を切り拓いていきたい。来る総代会に向けての大きいなる発信を期待したい。（N）

“うたごえ喫茶”開店

とき 6月11日(土)
14:00~16:00

ところ 組合員ルーム

神谷あり子さんが
長野市から来ます！

“うたごえ”の好きな
組合員の皆さん ご自由に
ぜひ御参加ください。

飲み物代 300円

(問い合わせ 石坂さん)